

将来人口(案)について

第6次吉川市総合振興計画の将来人口：77,000人

将来人口

日本の総人口が減少傾向にある中、本市においては、計画的な土地区画整理事業などにより人口増加を続けていますが、本計画期間内に人口増加のピークを迎え、その後減少に転じることが見込まれます。

本計画の推進により各施策を効果的に展開し、人口増加のピークの先延ばしやその後の減少の緩和を図り、計画期間が満了となる令和13年(2032年)の目標として将来人口を77,000人と設定します。

参考(現行：第5次吉川市総合振興計画)

将来人口

全国的な人口減少に転じた現在、緩やかな人口増加を続けてきた本市も、長期的には人口減少の時期を迎えることが予想されます。

しかし、第5次総合振興計画の目標年次とする平成33年までの間においては、本市の立地条件からも進行中の土地区画整理事業地内への人口定着が見込まれることから、人口は引き続き増加する予測のもと、平成33年(2021年)の将来人口を75,000人と設定します。

1 将来人口推計の目的

第6次吉川市総合振興計画の策定にあたり、計画の目標年度における人口の動向を推測し、将来人口の設定と、今後の施策や事業の方向性を検討するための基礎資料とすることを目的として、将来人口推計を行いました。

2 将来人口推計の期間と時点

推計は、令和2年から45年後の令和47年までの長期推計として行います。推計にあたっては、令和2年4月1日時点の住民基本台帳人口を基に、各年について4月1日時点で推計を行います。このため、各年度の人口は、翌年度4月1日の推計値となります。（令和13年度人口＝令和14年4月1日人口）

3 将来人口推計の単位（地域区分）

推計の単位については、自治連合会（旭、三輪野江、吉川中央、吉川南部、美南（西口））の5地域と現在開発を進めている吉川美南駅東口周辺地区に分けて推計を行いました。

4 推計方法

- ・コーホート要因法による推計
- ・自治連合会単位（5地域）でのコーホート要因法による推計の合算により市内全域の将来人口を推計しました。
- ・0歳から100歳以上の各年齢の各年における人口を推計しました。

コーホート	ある年（期間）に生まれた集団のこと
コーホート要因法	年齢別人口の変化の要因（死亡、出生及び転出入）について将来の仮定値をあてはめて将来の人口を求める方法。

5 仮定値の設定

(1) 生残率

- ・ある年齢の人口が、n年後の年齢に達するまで生き残る確率のこと。

出典：厚生労働省の平成30年簡易生命表（国立社会保障・人口問題研究所が発表している生残率の基となる統計で、各年齢の人口が1年後に生き残っていた割合を算出している）を利用しています。

例1：40歳の方がa年の翌年に下記の通り生き残った場合

年齢	性別	a年	a+1年	生残率
40歳	男性	500人	498人	0.996

(2) 移動率

- ・人口に対する転出入数の比率
- ・5年間の実績人口をもとに、各年齢の各年における封鎖人口（転出入を0として、生残率のみかけた人口）を算出し、封鎖人口と実際の人口との差を純移動数として、純移動数を実際の人口で割って移動率を求めています。
- ・5地区別に各年の移動率を求め、その直近5年の平均値が将来にわたり続くと仮定しています。

例2：40歳の方がb年の翌年に下記の通りとなった場合（各年とも生残率を乗じた人数）

年齢	性別	b年（封鎖人口）	b+1年	移動率
40歳	男性	500人	550人	0.1

◆例1の生残率、例2の移動率で計算した場合c年の翌年には548人となる

年齢	性別	c年	生残率	移動率	c+1年
40歳	男性	500人	$\times (0.996 +$	$0.1) =$	548人

(3) 合計特殊出生率

- ・合計特殊出生率：15歳～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの。1人の女性が生涯に産むことが見込まれる子どもの数に相当します。

【合計特殊出生率の設定パターン】

①	毎年コンスタントに1.40（市の過去10年平均）
②	1.44（H30実績値）から始まり、段階的に上昇し、令和22年（2040年）に2.07（国の示す「人口置き換え水準」）を達成

	R2	R4	R6	R8	R10	R12	R14	R16	R18	R20	R22
①	1.40	1.40	1.40	1.40	1.40	1.40	1.40	1.40	1.40	1.40	1.40
②	1.44	1.51	1.58	1.66	1.73	1.80	1.85	1.91	1.96	2.02	2.07

《参考》過去10年の合計特殊出生率

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	平均
市	1.36	1.33	1.29	1.27	1.49	1.32	1.62	1.38	1.46	1.44	1.40
県	1.28	1.32	1.28	1.29	1.33	1.31	1.39	1.37	1.36	1.34	1.33
国	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43	1.42	1.45	1.44	1.43	1.42	1.42

6 特殊要因

(1) 美南地区（美南駅西口）について

美南地区（美南駅西口）については、開発途中の平成 27 年度から令和 2 年度までの社会増が大きいため、人口が増加し続ける推計となるため、一定の期間で、他地区と同様に移動率が安定するよう試算を行う必要があります。

きよみ野地区を参考に、美南地区の土地区画整理事業の完了から 16 年経過する令和 10 年に、きよみ野地区と同等の安定した移動率に至ると仮定し試算を行いました。

【美南地区の移動率】

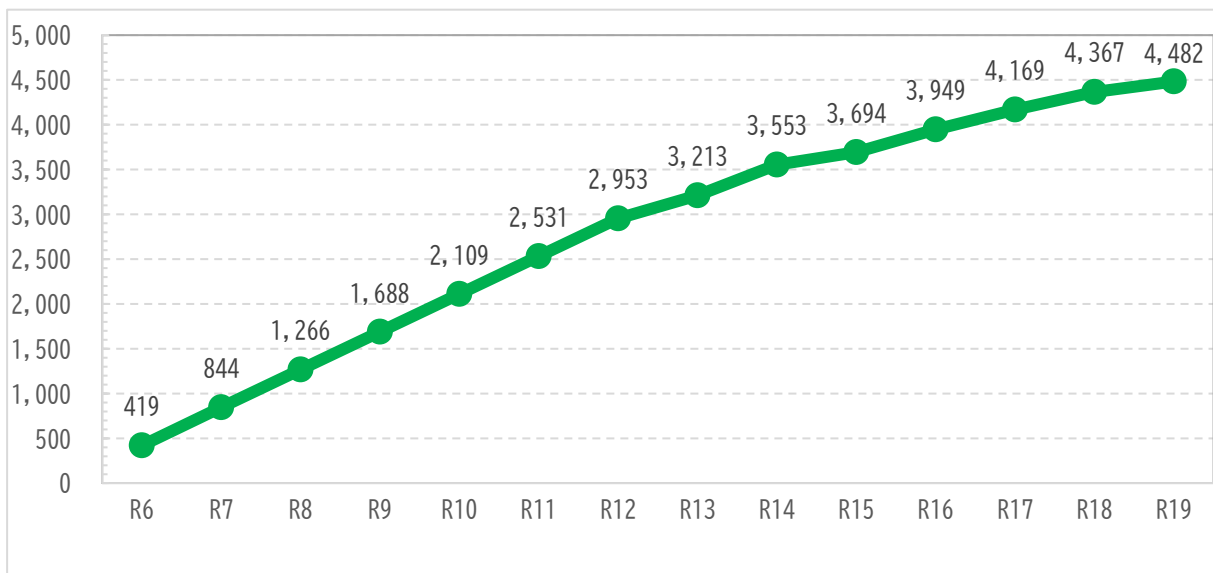
R2	R3~R9	R10~
美南直近 1 年の移動率	各年齢の移動率が一年ごとに徐々にきよみ野の移動率に近付いていく	きよみ野(平成 27 年~令和 2 年)地区の 5 年平均移動率

(2) 吉川美南駅東口周辺地区について

- ・計画人口 4,500 人
- ・事業計画期間：平成 29 年度～令和 8 年度
- ・令和 6 年度から人口定着を見込み、年齢構成は美南駅西口の実績をもとに算出
- ・美南駅東口の人口は、中央土地区画整理地内の人口定着推移に準じて定着
- ・計画人口の 100%達成後は、きよみ野地区の直近 5 年平均の移動率を適用

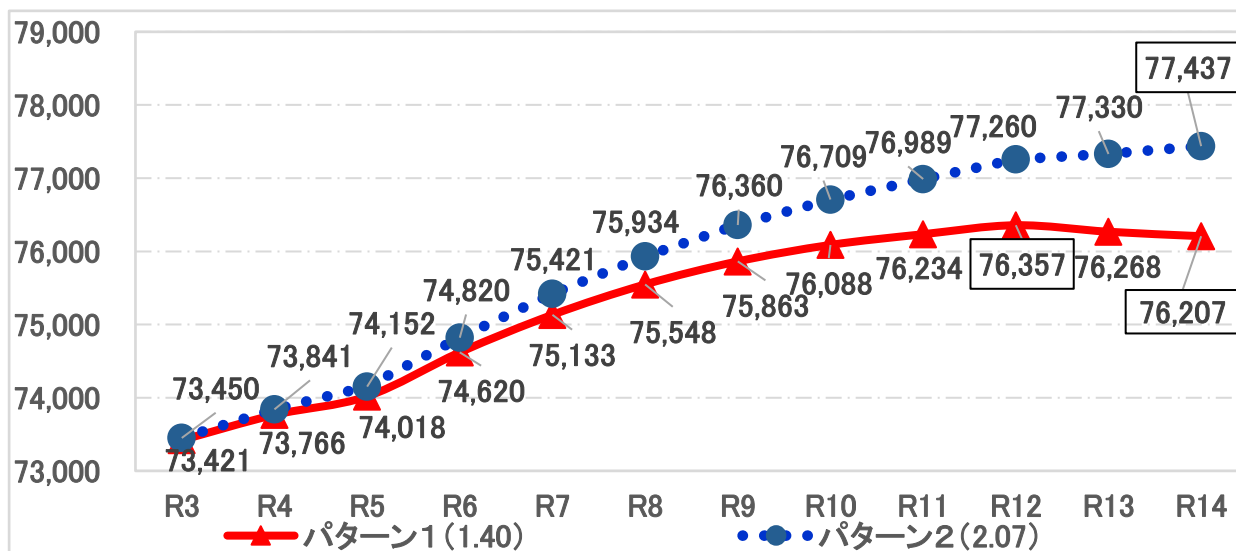
R13（人口定着 8 年目）	R15（人口定着 10 年目）	R19（人口定着 14 年目）
計画人口の約 70%	計画人口の約 80%	計画人口の約 100%

美南駅東口の人口定着推移



7 推計結果

出生率	人口最大値		R14 の人口	将来人口	R14 時点の人口局面
パターン① (1.40)	R12	76,357	76,207	76,000	減少中
パターン② (2.07)	R14	77,437	77,437	77,000	最大



将来人口の設定にあたっては、更なる健康寿命の延伸、シティプロモーションの推進や子育て環境の充実など、各施策の一層の推進により、人口増加のピークの先延ばしやその後の減少の緩和を図ることで、人口は、パターン1よりも上振れすることを目指します。